

ROBO-ONE企業チーム 参加支援のご案内

二足歩行ロボットで、技術と人材を育てる新しい企業活動

一般社団法人二足歩行ロボット協会



ROBO-ONEとは？

ROBO-ONE（ロボワン）は、2002年に日本で誕生した二足歩行ロボットの格闘競技大会である。パンチやキック、投げ技などを駆使して相手を倒すという分かりやすいルールと、個人開発者が自作ロボットで参加できる開放性が相まって、初回から大きな注目を集めた。

【ROBO-ONEの発展の流れ】

■ 2000年代前半：ロボットブームと技術の急成長

市販キット（KHRシリーズなど）が普及し、参加者が増加

■ 2010年代：競技の拡張と国際化

ROBO-ONE Light（1kg級）が開始（2010）

海外（韓国・台湾・中国など）で認定大会が増加

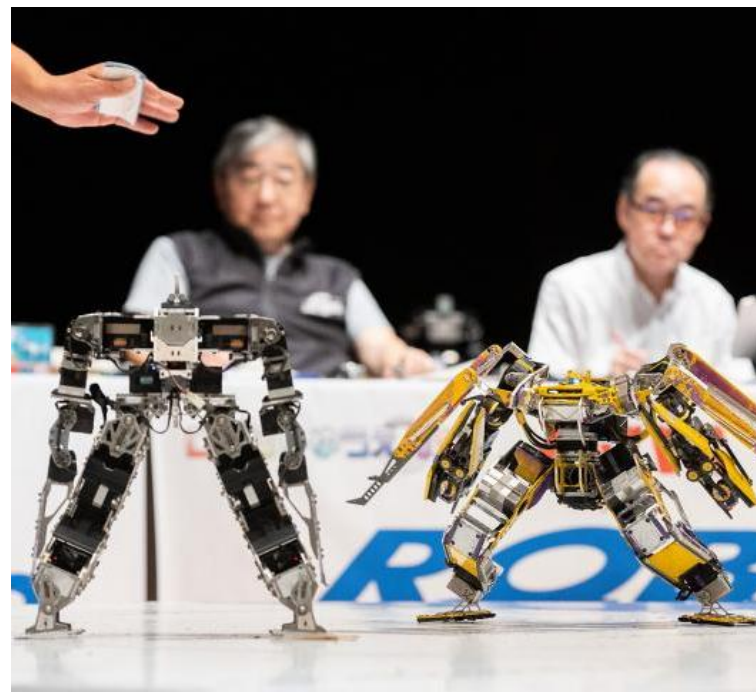
■ 2020年代：国際競争と新世代機の台頭

韓国 ROBIT の Bi-Ma が連覇し国際勢が存在感を強める

■ 現在：世界的ロボット競技へ発展

国内外で年間多数の大会が開催

ホビーロボット文化と技術者コミュニティの中心的存在に



ROBO-ONEのクラスについて

■ ROBO-ONE 重量級（4kg以上）

自作ロボット中心のハイレベル格闘競技で、迫力と完成度が高く、観客人気も抜群

▼ 技術的特徴

高出力・高剛性・高速制御を備えた総合技術の結晶

電力・構造・制御・操縦すべてが勝敗を左右する

■ ROBO-ONE Light（1kg以下の軽量クラス）

市販キット（KHRシリーズなど）で参加しやすく、

初心者や学生の参加が多い競技で、

操作技術が勝敗に大きく影響する。

2010年のスタート以降、裾野を大きく広げてきた。



KHR-3HV

支援対象/認定機体：組立から参加したい方に推奨

ROBO-ONE Lightで最も参加台数が多い公認ロボットの「KHR-3HV」も支援対象です。

ロボットの構造からモーション作成まで、基本的な内容を1から学ぶことができます。

無線コントローラーなどのオプションを揃えればそのままLightで戦えるロボットに！

プラスドライバーで組立可能でオンラインでの組立指導も行っております。





企業の福利厚生にROBO-ONEを！

「ロボット部」を企業活動に追加しませんか

- 「ロボット部」を新しい企業活動に

登山部や野球部のように、技術好きが集まる“ロボット部”を社内に作れます。

- 技術好きの社員が輝ける場

好きなことを会社の活動として続けられることで、社員のモチベーションが高まり、結果として離職率の低下にもつながります。

- 企業ブランディングにも効果

「ロボットに強い会社」という印象をつくることで、企業の技術力を効果的にアピールできます。採用活動でも技術系の学生に強く響き、結果として技術系企業としての存在感を高めることにつながります。



ロボコンの課題

高校・大学でロボコンをしても、個人で続けるには費用負担が大きいいため、99%が卒業と同時にやめてしまう

⇒企業が支援することで、技術者が継続して成長できる環境を作れる

企業がロボコンを支援するメリット

- リクルートに強い**
ロボット好きの優秀な学生にアピールできる
- 離職率の低下**
社員が好きなことを会社で続けられる
- 製造業に必須の技術が身につく**
機構設計／制御／電気／プログラミング／チーム開発
- 技術力アピールに最適**
「ロボットに強い会社」というブランドを作れる

支援内容（ロボットゆうえんち）

■ ROBO-ONE LIGHT に参加できる完成機を特別価格で提供

初心者でもすぐに大会へ参加できるよう、調整済みの完成機を特別価格でご用意いたします。

ROBO-ONEカスタム「マツノスペシャル」
特別価格：18万円（+税）

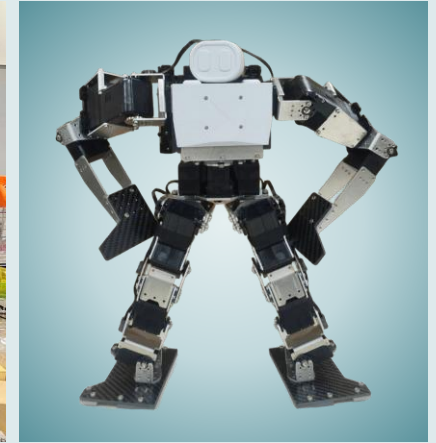
- オンライン技術指導（無料）によるサポート
調整方法、モーション作成、操縦のコツまで丁寧にフォローいたしますので、初めての方でも安心してスタートできます。
- スタッフ派遣による講習会（有料）にも対応
実機を使った実習形式の講習会を開催可能。
専門スタッフが現地で直接指導し、短期間でスキル習得をサポート。

【ROBO-ONE企業チーム参加支援事務局】

ロボットゆうえんち

住所 神奈川県厚木市中町2-12-15アミューあつぎ3F

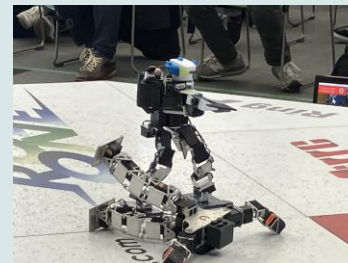
TEL 046-225-5210



ロボットビルダー・松野氏

ROBO-ONEで活躍する二足歩行ロボットの開発者。
代表機体「Frau」は多数の自作サーボを搭載した高性能ロボットで、
第32回ROBO-ONEにてミスミ賞を受賞した。
2025年度にはROBO-ONE LIGHTで世界チャンピオンとなり、
現在は「ロボットゆうえんち」の開発責任者を務めている。

松野氏が制作したROBO-ONEカスタム「マツノスペシャル」は、
2026年度大会で小学生操縦者が予選突破を果たし、大きな注目を集めた。



世界の二足歩行ロボット事情

■ 世界は企業主導で急成長

中国・アメリカでは大企業が巨額投資を行い、二足歩行ロボットの開発が急速に進んでいる。研究開発費・人材・設備が国家レベルで集中し、短期間で性能が大きく向上している。テレビで話題になった“大量のロボットがダンスする映像”も、企業が量産したロボットを同期制御したショー演出であり、個人の技術力ではなく、企業の資本力と量産技術のデモンストレーションに過ぎない。

■ それに対して日本は？

日本には、機械・電気・制御・プログラムを1人で完結できる技術者文化が根付いている。これは世界的にも極めて珍しい、個人の総合技術力が発揮される土壌。

■ 日本の強みを活かすなら ROBO-ONE

ROBO-ONE では、設計から製作、制御、操縦までを一貫して経験でき、マルチスキル人材の育成に最適な環境が整っている。日本の“個人技術力”が最も輝く舞台として、高い教育的価値を持つ。さらに、大会では日本と海外選手との友好も深まり、技術が国境を越えて人をつなぐ場にもなっている。



ぜひ、ROBO-ONE部の設立をご検討ください！

ご興味をお持ちいただけましたら、ロボットゆうえんち代表・岡本正行までお気軽にお問い合わせください。

電話番号：080-1108-7172